

## 震災を振り返って

第2救護班 薬剤師 我妻 禎

~~~~ 子供たちへのヨード剤の服用指導 ~~~~

当直明けの日、急遽福島高校にて被ばくの可能性がある避難者にヨウ素剤の服用指導を行うこととなった。ヨードに対する知識はなかったので、事前にネットなどにより調べて向かった。無事子供たちに配布した後、二本松市に向かいそこでスクリーニングを受けた。この先どうなるか不安だったが、貴重な経験をした1日だった。

震災直後より薬剤部は24時間体制をとっており、私も13日に待機当直をしていました。14日(月)の朝当直明けで帰宅しようとした時、県立福島高校より被曝疑いの人たちへのヨード剤の服用の指導と乳幼児のヨードの調整依頼があり、薄薬剤師と共に県立福島高校へ行くことになりました。

ヨードに対する知識はなく、どうやって調整するか見当がつかなかったのですが、ネットなどにより情報を得て高校に向かいました。その際、蒸留水、単シロップ、薬包紙、カップを準備して持っていくことにしました。

初めに高校の職員よりヨウ化カリウム丸100mgを渡されました。これを手動のコーヒーミルで粉碎し、それぞれの服用の力価に量りシロップを加えて飲ませることにしました。その後ヨウ化カリウムの粉末があるとわれそちらを使用することにしました。なぜなら粉碎したのは溶けにくく飲みづらそうだったからです。

作り方は持ってきた資料にあったのですが、ヨウ化カリウムの原薬を8, 15gとり、水250mLと単シロップ250mLに溶かして調整して投与するものでした。これだと1mL=16, 3mg=新生児、2mL=32, 6mg=1ヶ月~3歳未満、3mL=48, 9mg=3歳~7歳となり投与しやすくなります。しかしシロップも蒸留水もそんなに持って行かなかったので、発想を変えて原末1gを100mLの蒸留水に溶かし1mL当たり10mgのヨウ化カリウム溶液を作り、投与含量に合わせてシロップを加えて投与しました。最初に量を間違えて投与したケースもありましたが、無事高校内の子供たちには配布できました。概ね作業が終わり帰る時になり、二本松に行くことと主事から聞かされます。あとで分かったことですが、私たちが見に行った体育館の中に被曝していた可能性がある人がいたらしく、二本松男女共生センターにスクリーニングに行く事になったとのこと。初めての経験でドキドキしましたが、幸い全員被曝なしで帰路に就くことができました。

本来なら当直明けで9時に帰宅するところ、帰院したのが18時頃で家に着いたのが19時頃になっていました。

水素爆発が続き放射能で汚染される福島。これからどうなるのだろうと不安だったが、今となって思えば貴重な経験をした1日でした。